

鱒川水系河川整備計画

平成16年11月

長 崎 県

鱒川水系河川整備計画

目 次

1 . 鱒川 ^{わにがわ} 流域の概要.....	1
(1) 概 要.....	1
(2) 自然条件及び社会条件.....	1
(3) 自然環境及び利用状況.....	1
(4) 関連計画.....	2
 鱒川水系流域概要図.....	 3
2 . 鱒川の現状と課題.....	4
(1) 治水の現状と課題.....	4
(2) 利水の現状と課題.....	4
(3) 河川環境の現状と課題.....	4
3 . 計画対象区間.....	5
4 . 計画対象期間.....	5
5 . 河川整備計画の目標に関する事項.....	5
(1) 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項.....	5
(2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項.....	5
(3) 河川環境の整備と保全に関する事項.....	5
6 . 河川整備の実施に関する事項.....	6
(1) 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の 施行により設置される河川管理施設の機能の概要.....	6
(2) 河川の維持の目的、種類及び施行の場所.....	8
(3) 流域での取り組みにおける連携や情報の共有化に関する事項.....	8
 鱒川水系整備計画位置図.....	 9

1. 鱒川流域の概要

(1) 概要

鱒川は、五島列島福江島のほぼ中央に位置し、父ヶ岳（標高 460.8m）七ツ岳（標高 431.3m）等の山々にその源を發し、郷津川等の支川と合流しながら北流したのち岐宿湾に注ぐ、流路延長約 14.7km、流域面積約 32.4km² の二級河川です。その流域は、大部分が五島市岐宿町に属しており、最上流部の一部が五島市玉之浦町及び五島市富江町となっています。

図 1-1 に鱒川水系流域概要図を示します。

(2) 自然条件及び社会条件

流域の気候は比較的温暖で、年平均気温は 17 程度です。年間降水量は平均で 2,300mm 程度ですが、台風や梅雨期の集中豪雨の影響を受け、夏季と冬季の降水量較差が大きくなっています。そのなかでも、特に梅雨期の豪雨によって災害が多く発生しています。

流域の地形は、中上流域が標高 300m から 500m 程度の山々に囲まれた盆地となっているのに対し、下流域は玄武岩からなる溶岩台地となっており、鱒川は河口近くまで V 字の峡谷の様相を呈しています。

鱒川が流れる五島市岐宿町は、五島藩の祖となった宇久家第八代・寛公が最初に福江島に進出した地で、鱒川下流の城岳には、寛公が築城したとされる城嶽山城跡（町指定文化財）があります。また、寛公の孫にあたり、田畑の開墾などを指導し、郷民から敬われていたと伝えられる茶々子の墓（町指定文化財）が鱒川最上流部に残っています。

流域の土地利用状況は、約 7 割が山林で残りが田畑となっています。中上流域の平地部では古くから農業が盛んで、五島列島の穀倉地帯となっており、鱒川の河川水は農業用水として利用されています。また、平地部から峡谷部へ入った山木戸橋下流には鱒川ダムがあり、鱒川の水の一部は隣接する小川原川に導水され、発電用水として利用されています。

流域内の人口は減少傾向にあり、現在は約 2,000 人で岐宿町全体の約 5 割を占めています。

(3) 自然環境及び利用状況

鱒川上流域は、スギ・ヒノキ植林やシイ・カシ萌芽林などの山地となっていますが、中尾橋付近下流からは川沿いに平地が増え水田がひろがっています。河川には自然のままの区間も残っており、ところどころに形成されている瀬や淵は、タカハヤ、カワムツ、ヨシノボリ類などの魚類の生息の場となっています。また水際にはカサスゲ群落やジュズダマ群落がみられ、メダケ、スタジイ、ヤブツバキなどの繁る河畔林も数箇所残っており、カワセミやミ

ソサザイなどの鳥類の生息域となっています。

中流域は河川沿いに水田がひろがっており、そのなかを鱒川は流下しています。河川は改修され直線的な流路ですが、そのなかには小規模な瀬や淵が形成され、水際にはカサスゲ群落やジュズダマ群落などが群生しています。連続的に形成されている瀬や淵はカワムツ、ヨシノボリ類などの生息の場となっており、水辺では魚を餌とするミサゴ(環境省レッドデータブック準絶滅危惧種)やカワセミなどの姿もみられます。中上流域を通じて、河川沿いの道路は、地域住民の散歩道や農耕用の通路として利用されていますが、川へ降りる階段等の施設が少なく、水辺に近づくことが困難なこともあり、水遊びや魚釣り等の利用は見られません。

下流域では、河川はV字谷の谷底を蛇行しながら流下しており、両岸は溶岩の切り立った崖となっています。河道は自然河道で瀬と淵が形成され、カワムツ、ヨシノボリ類などの魚類が生息しています。また、シイ・カシ萌芽林やスギ・ヒノキ植林が水際までせまっております、良好な水辺環境を有しています。河口部では干潮時に小規模な干潟が形成され、サギ類やカモ類が多くみられます。河川沿いには道がなく、河川を眺望できるのは鱒川橋や元越^{もとごえ}大橋^{おおはし}からのみとなります。

鱒川は水質に係る公共用水域の環境基準A類型(BOD2.0mg/ℓ以下)の指定を受けており、山木戸橋で経年的に水質観測が行われています。最近10年間(平成5年～平成14年)のBOD75%値の平均は1.9mg/ℓで、環境基準を満しています。

(4) 関連計画

鱒川が位置する五島市は、平成16年8月1日に福江市・富江町・玉之浦町・三井楽町・岐宿町・奈留町が合併して新しく誕生しました。新市建設計画では、「しまの豊かさを創造する海洋都市・五島市～人と自然との共生を大切にし安心と活力あふれるまちづくりをめざして～」を基本理念とし、「豊かな自然環境の保全と活用」、「安全・快適で住みよいまちづくりの推進」等の施策を推し進めていくこととなっています。

また、長崎県では基本理念を「豊かな地域力を活かし、自立・共生する長崎県づくり」とする長期総合計画を策定しています。河川に関連する施策としては、「地域を支え合う安全・安心な社会づくり」、「自然環境と人々が共生する社会づくり」を政策に掲げ、安全で快適な生活環境づくりをめざしています。

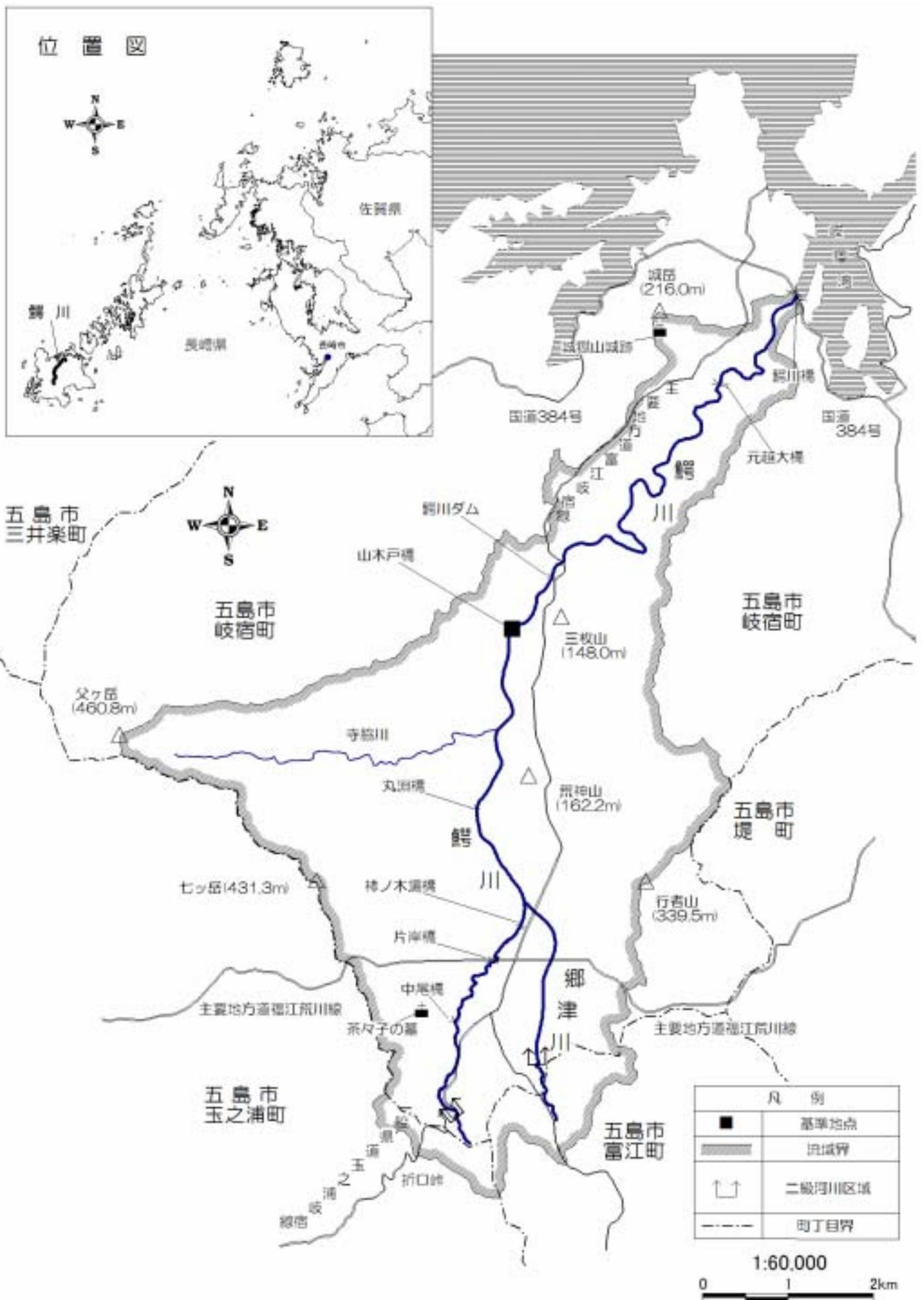


図1 - 1 鰐川水系流域概要図

2. 鱈川の現状と課題

(1) 治水の現状と課題

鱈川は、川幅が狭く屈曲部も多かったため、過去に幾度となく洪水氾濫を起こしています。特に昭和42年7月の洪水の際には、鱈川中流域の田畑が冠水し、ほとんどの橋梁が流失しました。

この洪水を契機として、山木戸橋(河口から上流約7.9km地点)から柿ノ木場橋(約11.8km地点)間の河川改修工事が行われ、また、中尾橋(約13.4km地点)よりも上流や支川郷津川についても災害復旧とあわせた河川の改修が行われています。

しかしながら、河川改修が行われていない片岸橋(約12.3km地点)付近では、現在でも毎年のように浸水被害に見舞われています。このため、周辺の二本楠地区の住民は豪雨のたびに不安な生活を余儀なくされており、抜本的な治水対策が望まれています。

(2) 利水の現状と課題

鱈川の河川水は、中上流域の水田約440haの農業用水として利用されているとともに、鱈川ダムを利用した発電用水として使われています。

当河川では、渇水時期に中流域において農業用水が不足する傾向がありますが、隣接する水利組合間での渇水調整により大きな被害とはなっていません。

(3) 河川環境の現状と課題

鱈川には、下流域一帯の自然のままの河道や、中上流域のところどころに見られる河畔林など、動植物の生息・生育の場としての豊かな自然環境が残されています。一方で、過去に河川の整備が行われた区間においては、河岸が急勾配のブロック積み護岸となっていることから、人が水辺に近づくことが容易ではありません。

このようなことから、今後の河川整備においては、良好な自然環境の保全に努めるとともに、水辺に近づける場所の確保が必要です。

3．計画対象区間

本計画の対象とする区間は、図 6-3 に示すとおり鰐川の河口から二級河川上流端までの約 14.7 km、郷津川の鰐川合流点から二級河川上流端までの約 3.1 kmとします。

4．計画対象期間

本計画の対象とする期間は、概ね 30 年間とします。

5．河川整備計画の目標に関する事項

(1) 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

鰐川においては、想定氾濫区域における人口・資産の状況等を考慮し、計画規模の降雨により発生する流量の安全な流下を図ります。

また、計画規模を越える洪水等における被害を軽減するため、地域住民や関係機関との連携の強化、河川情報の共有化の推進に努めます。

(2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

近年、鰐川では地域住民生活に著しく影響を与えた渇水実績はありませんが、今後とも地域住民や関係機関との緊密な連携のもとに、現在の河川環境に配慮しつつ、適正な水利用を図ることにより、流水の正常な機能の維持に努めます。

(3) 河川環境の整備と保全に関する事項

鰐川では、治水・利水面との整合を図りつつ、タカハヤ、カワムツ、ヨシノボリ類などの生息の場となっている河道内の瀬・淵や、カワセミ、ミソサザイなどの生息の場となっている河畔林の保全に努めます。

また、河道整備を行う際には、生態系の連続性に配慮するとともに、人が水辺に近づける場の確保に努めます。

6 . 河川整備の実施に関する事項

(1) 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

1) 河川工事の目的、種類及び施行の場所に関する事項

鱒川水系河川整備基本方針に位置づけられている河川の整備のうち、計画規模の降雨により発生する流量（計画高水流量）の安全な流下を図るため、柿ノ木場橋から二本楠橋の上流までの区間の河道整備を行います。



図 6-1 河道整備実施区間計画高水流量配分図

2) 当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

計画高水流量に対する流下能力を確保するため、柿ノ木場橋から二本楠橋までの約1.0 kmの区間について、河道拡幅、河床掘削等による河道の整備を行います。その際、瀬や淵の現状に配慮した河床部の整備や、河畔林を残すことにより、現在生息・生育している動植物の保全に努めます。また、堰への魚道の設置により、上下流の生態系の連続性を改善するとともに、必要に応じて、人々が水辺に近づきやすいよう、階段の設置など親水性にも配慮した河岸づくりを行います。

主要な地点における計画横断形は概ね下記のとおりとします。ただし、横断形状については、標準的なイメージを示したものであり、整備の実施においては現地状況等を調査し決定します。

片岸橋下流
(河口より12.2 km 付近)



二本楠橋下流
(河口より12.6 km 付近)

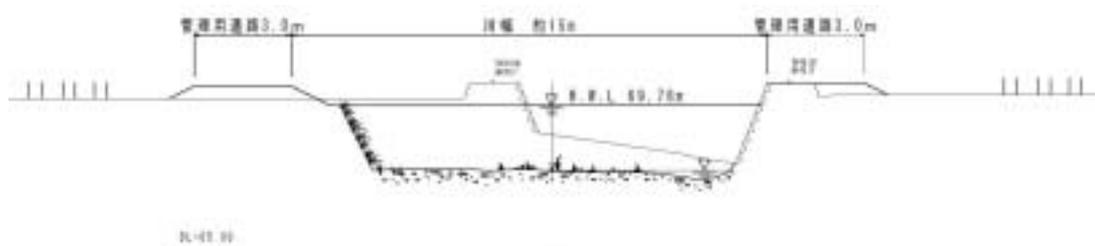


図 6-2 主要地点標準横断図

(2) 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

1) 河川の維持の目的

「災害の発生防止」、「河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持」及び「河川環境の整備と保全」の各観点から、河川の持つ各機能を十分に発揮させることを目的に河川の維持を行います。

2) 河川の維持の種類及び施行場所

護岸の維持・点検・補修

護岸については、亀裂や陥没等の異常がないかを確認し、異常が確認された場合には、必要に応じてその補修工事を実施します。

河積の確保

河道内の土砂の堆積状況等を確認し、必要に応じて堆積土砂の除去を行います。また、流水の障害となる河道内の植生については適正に管理します。なお、土砂除去及び植生管理にあたっては河川環境へ極力配慮します。

水質の改善と美しい景観の確保

下水道事業や水質に係る地域の活動等と連携を図るとともに、ごみ投棄防止の働きかけを行うなど、地域住民の協力のもと水質の改善・美しい河川景観の確保に努めます。

(3) 流域での取り組みにおける連携や情報の共有化に関する事項

1) 流域での取り組みにおける連携の強化

鱒川をよりよい川とするには、地域住民と河川管理者が川は地域共有の公共財産であるとの認識のもと、連携して川を守り育てていくことが重要です。そのために、川の優れた価値を共有するための情報の発信や、河川清掃等の地域住民の自主的な活動に対する支援を行うなど、連携のための種々の方策を講じるように努めます。

2) 河川情報の共有化の推進

計画規模を超過する洪水や整備途上における施設能力以上の洪水に関しては、関係機関と連携し警戒避難及び情報連絡体制の整備等のソフト対策を総合的に実施します。また平常時においても、ホームページ等を通じて水文・水質等の河川に関する情報の共有化に努め、地域住民とのコミュニケーションの充実を図っていきます。

